

「今こそ、映画の力を被災地に」 みやこ映画生協「シネマリーン」の奮闘

● 日本で唯一の映画生協誕生

三陸唯一の映画館、「シネマリーン」（岩手県宮古市）。映画上映用フィルムの生産中止が発表され、存続の危機にさらされた「シネマリーン」は、デジタル化するための募金を2012年12月から呼び掛け始めました。「シネマリーン」存続のために奮闘する、「みやこ映画生協」理事の榎柎一則さんに、4月7日、お話を伺いました。

「みやこ映画生協」は、日本で唯一の映画生協

です。昭和30年代後半の宮古市では、映画が7スクリーンで上映されるなど、「映画の好きなまち」でしたが、テレビやビデオの登場で、映画業界全体が斜陽産業となり、1991年にはその姿を消しました。

そうしたなか、映画好きの有志が集まり、自主上映を続けていたところ、「自分たちの映画館をつくりたい」という声が多く聞かれるようになり、1997年、日本初の映画生協が誕生しました。「シネマリーン」の開館時には、行列ができ、多くの方が映画館誕生を待ち望んでいたことが分かります。

そうしたなか、映画好きの有志が集まり、自主上映を続けていたところ、「自分たちの映画館をつくりたい」という声が多く聞かれるようになり、1997年、日本初の映画生協が誕生しました。「シネマリーン」の開館時には、行列ができ、多くの方が映画館誕生を待ち望んでいたことが分かります。

● 被災後2週間で映画上映を再開

そんな「シネマリーン」を、2011年3月11日の東日本大震災が襲いました。宮古市の揺れは、震度5弱。幸い「シネマリーン」は、津波の被害を受けなかったため、機材に大きな影響はありませんでしたが、榎さんは映画館の再開をためらっていません。「街の人たちが泥かきとかがれきの撤去をしているのに映画館をスタートさせていいのかと、すごく悩みました」

そんな榎さんに届いたのは、映画上映を待ち望む人々の声でした。「映画はやってないんですか」、「子どもが映画を楽しみにしています」といった声に押され、榎さんは、被災後2週間での映画館の再開を決断したといいます。「数はそんな多くなかったですが、映画を楽しみにしてくれている人が来てくださいました。お礼のメッセージももらいました」

● 「映画の力」

こうして、「シネマリーン」を再開させた榎さん。5月からは、被災地で、無料の巡回上映会をスタートさせました。

「現在、177回を数えました。やっぱり映画館に来られる人というのは限られているんです。来られない子どもたちとか高齢者たちはどうしてるんだろうと心配になりました。当時は、娯楽がまったくなかったんですね」

巡回上映会を行なっていて、榎さんがあらためて感じたことがあるといいます。それが、『映画の力』です。



子どもたちからのメッセージを持つ、^{くしげた}榎さん。



「巡回上映会を行なうと、お客さんとの距離が近いので反応が分かるんですよね。そうすると、皆さん本当に喜んでくださる。みんなでワッと笑ったり、泣いたり、一人がテーマ曲を歌い出すとみんなが歌い出す。同じ空間と時間を、一緒にいる人と共有できるのが、DVDとは違う魅力なんですよ」

こうして上映会を続ける中、櫛桁さんにとって忘れられない出来事が起こりました。「6月前半にやった上映会で、帰り際におばあさんが『震災後、初めて大笑いした』って伝えてくださったんです。今もそうですが、特に震災直後、被災地の人たちは、『自分は楽しんでいいのか』という複雑な気持ちを持っていたんです。そんな中で、初めてこんなに笑えたという言葉聞いて、うれしく、また、言葉を失いました」

そんな体験をした櫛桁さんが思うことは、「文化・芸術」が、今後ますます必要になってくるということです。「先が見えてこず、不安ななか、やっぱりそういうソフト的な部分の支援、楽しむもの

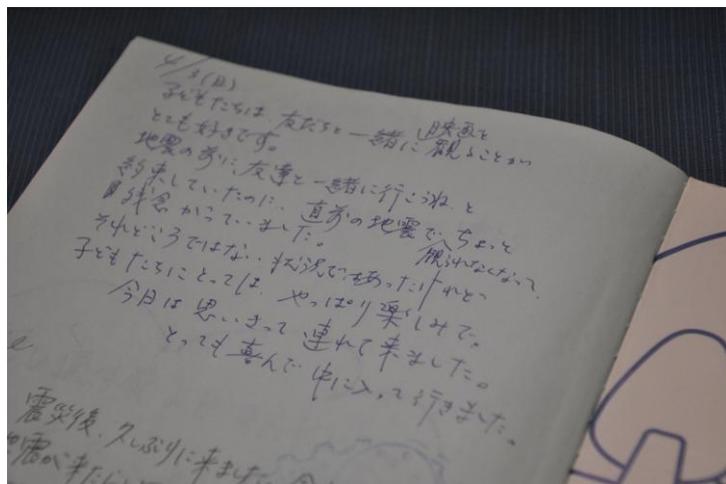


子どもたちから寄せられたお礼のメッセージ。

ていうのが必要なんだろうってことを感じてます。震災3年目を迎え、被災者の中でも格差が出ていたり、コミュニティーがばらばらになったりしています。そうした問題に、映画がどれくらい役に立つかは分かりませんが、確実に言えることは、映画だったらみんなが集まってくれるということ。映画を上映することで、地域のコミュニティーの再建につながったり、人が集まって楽しめる場を提供していきたいなって思います」

● 募金目標額は、2,000万円

「シネマリーン」が募っている募金の目標額は、2,000万円。これは、映写機材2スクリーン分1,400～1,500万円と長期メンテナンス契約費用及び消耗品費用を合わせた額です。3月24日現在で、645万7,376円が集まり、1スクリーン分の工事の目処は立ってきました。しかし、1スクリーンずつ工事を行なうと2スクリーン同時に改修するより、倍の工事費がかかってしまうことと、夏以降のフィルム映画上映が厳しい状況のため、櫛桁さんは、なるべく一気に募



感想ノートに書かれた映画館再開にあたってのお礼の言葉。

日付は、2011年4月3日。

金を集めたいと考えています。募金にあたっては、宮古市の飲食店などが率先して募金箱を置いてくれたり、ボランティアが応援のバッジを作って販売しその利益の一部を募金にしたりなど、多くの人が募金に協力しています。

「ご高齢の方が、シニア料金で安く映画を見せてもらっているからと、通常の1,000円のほかにもう1,000円募金してくれたり、いつも夫婦で来てくれる年配の方が、今日はおじいちゃん来てないからお連れ合いの分を入れてくれたり。全国各地からも募金をいただきますね。1,800円が入金されていると、わー、映画1本分だなんて思っとうれしくなります」

多くの人に笑顔を届けてきた「シネマリーン」。被災地に生きる人々の「心のケア」が必要となってくるなか、今後、より大きな役割を担っていくことが期待されています。

【募金先】

岩手銀行宮古中央支店 普通 2 1 2 5 2 5 6

名義 みやこ映画生活協同組合 理事長 小野寺正光

ミヤコエイガセイカツキヨウドウクミアイ

募金一次〆切：2013年5月31日（〆切以降も、デジタル化完了まで募金を行なっていきます）